

令和元年度朝霧野外活動センター指定管理者候補者選定委員会（1次審査）議事録

日 時 令和元年10月15日(火) 午前10時から午前11時30分
場 所 県庁西館4階第1会議室B
出席委員 松永委員長、松井委員、阿部委員、脇坂委員、山田委員、
長澤委員、山下委員（委員7人全員出席）
事務局 社会教育課青少年育成班（洞口班長、山下教育主査、中野主査、中村主事）

— 開 会 —

— 社会教育課長挨拶 —

— 委員長による議事進行 —

— 協議開始 —

（委員長）それでは、まず事務局から審査方法等の説明を行う。

（事務局）配布資料の確認（提出された採点表を集計した一覧表、各委員のコメントを集計した一覧表）

[審査方法の確認]

- ・評価した点、評価できなかった点、不足を感じた点、不明な点などについて意見交換をする。
- ・意見交換の内容を参考に最初に採点したものを修正し、最終的な1次審査の得点を決定。
- ・申請者の得点は、委員が採点した得点の平均点をその業者の得点とする。
- ・疑問点は、2次審査のヒアリングの中で確認していただくことになる。

[事前採点の発表]

80.4点

— 各委員発表 —

（委員）選定基準アについては、実際に利用している者にとって、平等な利用の体制がどのくらい周知されているのか確認した。

選定基準イについては、朝霧の自然を生かした事業の提案は豊富にされているが、文化・歴史に関しては、内容が少し薄いと感じた。また利用者数の確保の提案に疑問を感じる部分があった。

独自性のある提案については、提案内容の効果や妥当性、実現性について、様々な工夫がなされていると思うが、その工夫が利用状況にどう繋がっているのか明確ではなかった。以上の点から、選定基準ア～ウについては、減点とした。

選定基準エ、オについては、施設を利用して不安に感じたところは見当たらなかった。

新学習指導要領の実施にあたって、当市内の小学校は、安全安心な自然体験、豊かな計画を立てたいということで、宿泊棟を主に利用するように移行している。キャンプ場の利用は、これから減少していく可能性があり、その点をどうとらえているのか確認したい。

多くの工夫された提案がなされているが、利用状況がどのくらいあって、効果実現がどのくらい見込めているのかを詳しく聞きたい。

(委員) 全体的に言うと、不合格にするようなレベルの内容ではないが、提案内容に具体的な話がほぼない点が一番気になっているところである。

選定基準イの「魅力的な提案があるか」という点については、めぼしい天文現象がない3月にプラネタリウムを使って、星空探訪が提案されているが、本当に子供たちの科学的な興味関心を養う事業として提案されているのかという点に疑問を感じたので、これに関しては点数を低くつけた。野外活動の指導はできると思うが、科学教育の指導が十分できないのであれば、ボランティアを活用したり、非常勤の人に支援をお願いしたりするといった提案があってもよかったと思う。

利用者の確保に関する対策も具体性に欠ける。「閑散期は、なぜ人が来ないのか」という分析が少し弱いと感じた。

情報保護についても、ありきたりな内容にとどまっていると感じた。情報漏洩というのは、だいたい人間が介在した時に起こるのであり、パスワードの運用管理規則が不明である点は評価としては低くなった。

選定基準オに関しては、先日の台風もそうだが、災害や事故は、同じような事例が他にも必ず起きているので、それを生かす仕組みが必要だと思うが、ほとんど書かれていない。

また、噴火警戒レベル2は火口周辺規制という状態にもかかわらず、施設を全て利用停止することになっている。本当にそれでいいのかと感じた。そういった提案の仕方からも、きちんと理解して作成しているのかと少し疑問を感じた。

(委員) 全体として、随分成長してきていると感じた。全体的にマイナス面は多くないと思った。

選定基準アに関しては、今までの実態を見てきても基本的な部分は十分に運営にも生かされており、大きな問題点はないと思っている。

平等な利用の体制が示されているかという点については、障害を持った方や外国の方など様々な方々への利用の提供について、もう少し具体的に示した方がよいと思い、少し評価点を下げた。

選定基準イに関しては、今までも新しいプログラムをたくさん開発しており、朝霧野外活動センターがロゲイニングの発信基地になるんだという意気込みと、それを実際にやっている点が評価できるが、マンネリ化しないように、斬新な企画もぜひ提案してもらいたい。

SNSでの発信や、インターネットによるエントリーの仕組みを作っていくことは閑散期の稼働率の拡大に繋がっていくと思っている。この部分が朝霧は弱いと感じた。朝霧で活動する楽しさが伝わるようなホームページにするために少し力や費用をかけていくことが求められると思っている。

選定基準ウの経費の節減について、今まで朝霧は冷房のいらぬ施設だったが、ここ数年は冷房設備がないと滞在・活動できない状況が増えてきており、電力需要の増加に加え、水道の利用も増加するかもしれない。初期投資や、運営経費はかかると思うが、再生可能エネルギーを最大限利用するなど、積極的な攻めの

経費節減の計画を提案してほしいという思いがあった。

また、朝霧野外活動センターを育てていかないと、静岡県全体の自然体験活動のレベルが上がらない。積極的に類似施設との人事交流や研修を提供する側になることによって、スタッフのレベルが上がってくると思うので、ぜひ専門職員のレベルアップを計画して進めてほしいと思う。

選定基準オに関して、マニュアルはできているので、今後は、特に利用者滞在時の訓練や利用者を巻き込んだ訓練を定期的にやっていくことによって、マニュアルの見直しやマニュアルと実態との差異が見えてくる。

(委員) 財務諸表を見ると、キャンプ協会は、「毎年売り上げが2億円、経費として2億円程度」という事業を行っている。すでに預金として2億円程度持っており、安全な法人であることはわかる。

毎年の利益にあたる計上増減額が4年間のうち3年間マイナスだった点が気になる。基本的に公益社団法人なので、プラスマイナスゼロくらいが理想的であるが、3年間マイナスという理由を質問したい。

また、会費収入が毎年減少しており、それに対してどういう対策を取られているのか質問したいと思っている。

選定基準アに関しては、抽象的な内容が多く評価しづらかった。予約について、どのような苦情があつて、今後どうする、どう対応する予定かという点を聞いて採点に反映させようと思っている。

選定基準イについて、PRが不十分と書かれてあるが、具体的な改善方法が書かれてなかったので、質問してみたいと思った。

(委員) 提案内容を見ると、具体的な中身があまりなく、点数をつけにくかった。

申請者が現在の指定管理者であり、もう少し前向きな内容があつてもよかったというのが全体的な印象。

選定基準アに関しては、「障害の有無にかかわらず」とか、「生涯学習の支援」ということも謳っているが、具体的にどうするのか示されてない。また、平等な利用について、具体的な内容が少し乏しいと感じた。

選定基準イについては、様々なプログラムを用意した点は評価できるが、入所者の確保についてのPRが少し足りないと感じた。

選定基準ウについては、光熱費以外の縮減は難しいかもしれないが、今後の運営に向けての縮減の具体策を書いてもらいたかった。

組織体制で所長が非常勤になっている点が一番気になった。非常時、この体制で本当に大丈夫か、ヒアリングの中で聞きたいと思っている。

(委員) 申請者が現在の指定管理者ということもあり、今までの運営を踏まえた新たな提案を期待していたが、全体的には「今までやってきたことを生かして引き続きやっていく」という内容だったと感じる。合格点だと思うが、他の委員と同じように、少し具体性が欠ける部分もあり、課題だと感じた部分もいくつかあった。

現指定管理者が、この朝霧野外活動センターで取り組んできた12年間、少なくとも「直近5年間の課題は何で、それを踏まえた上で今後こういう改善、新たな展開をしていく」という方針があれば、聞きたいと思っている。

選定基準イで様々な事業計画があったが、新しい事業が少なく、これまでと同じようなことを継続してやっていくという印象を受けた。もちろん今までの取組が良ければ継続してやることもよいが、ネット依存やニート、引きこもりといった社会的問題を抱える青少年に対する取組など、現代的な課題に対する新たな事業の考え方を確認したいと思った。

体制として、所長が非常勤になっていることが気になった。

防災訓練が年2回となっていたが、他の県立施設と比べると少なく、マニュアルの運用という点を少し強化した方がよいのではないかと感じた。

(委員長) プログラムについては、かなり細かく提示していると感じた。しかし、独自性を出していくという点ではアピールが弱いという印象は受けたが、活動の報告書と計画という観点からすれば、概ね良いと感じた。

「利用者の安全確保」の対策が一番気になった。指定管理者であっても、公の施設の持つ役割を積極的にとらえ、何か考えていく可能性なども示していただけたら、より良かったと思った。

無難に提案書を作成したという印象を受けた。

— 意見交換 —

(委員) 富士宮市内の各小学校に主催事業チラシを全校分、所員の方が学校を訪ねて定期的に配布しているが、果たして、参加者増につながっているか、多くの労力と経費がかかっていると思うが、別のやり方もあるのではないかなと思う。

(委員長) 指定管理は、委託料の範囲内でやるのが大前提なので、経費削減に関して、再生可能エネルギーを使っていくとなると初期投資がどうしてもかかる。そうするとそういう冒険はしにくくなって、無難に収めようとしてしまうのではないかな。

(委員) そういう部分は、指定管理の費用ではなく、設備の改善費用のような形で、自分たちがやりたいことを指定管理の申請を出す時や、毎年の年次計画を出す時に積極的に県に提案してほしいという思いはある。委員長が言ったように、「この範囲内でとか、この設備をできるだけ効率よく使っていく」という観点で運営をし、報告もしていると思うので、そういう意味では、小さくまとまりつつあるとは思いう。だからこそ、新しい指定管理の希望者が出て、斬新な提案をしてくれたら、もっと、外のよい風が入ってくるかなというふうに思っている。

(委員長) 現指定管理者は、何年かの経験の中で、特徴を出すよりは、ある種の経験則が「このぐらいでいいかな」というところに落ち着かせてしまっている感じを受けた。基本的な部分は大事だと思うが、チャレンジする姿勢や施設の特徴を生かした具体的な提案を選定委員会から働きかけられないかなと思った。

(委員) 行政からそれをやるのは難しいだろうから、やるのは外部評価等だと思う。第3期が終わった切り換えのタイミングで、そういう提案をしたり、条件としてついたりしていくという方法になると思う。

(委員) 我々には、このあとのプレゼンで質問して、次の時にそれを生かしてもらおうことしかできない。各委員が言っているように、私もドラスティックな提案が欲しいと思っている。朝霧野外活動センターに本当にプラネタリウムは必要かとも思

っている。プラネタリウムがなくても、朝霧では星は見えるはず。朝霧でなければできないようなことを提案してもらった方がその後の集客にも繋がっていく。提案内容が、「とりあえずこの施設を使ってこんな感じでいいか」という感じになっているのは少し残念。決して、不合格ではない。

(委員) 他施設でキャンプ場を使おうとしたら、「10年ぐらい使ったことないんだよね。再整備します。」みたいなことを言われた。というのも、小中学校では時間が取れなく、キャンプをやらなくなった。静岡県全体でそのような傾向にあると思っ
ている。私の地元の小学校も朝霧に自然体験訓練に行ったが、やはり宿泊棟に泊まった。ただ、朝霧の自然を使ったキャンプ場は、野外自然体験活動では捨てがたく、無くしてはいけない施設だと思うが、経営の足を引っ張っていく可能性がその後、出てこないかと思っている。キャンプ場利用について、聞いてみたいと思っている。

(意見交換後、午後のヒアリングにおける質問内容について確認をした。)

— 各自得点決定 —

(委員長) それではここまでの意見交換に基づいて、点数の修正をしてもらう。

<採点結果>

[修正後の採点結果の発表]

78.7点

(委員長) 事務局から集計結果が発表されたが、何かご意見はあるか。

(委員) 意見なし

(委員長) 午後からの2次審査会では、1次審査のご自身の点数にプレゼンやヒアリングの内容を加味して採点していただく。以上で、協議終了したので、進行を事務局にお返しする。

進行を事務局に引継ぎ

事務局から2次審査の日程等連絡